日本のひなた 宮崎県


小園臼太鼓
（五十鈴小学校）


椎葉の民謡
（那須春仁・那須夕莉）


日平俵踊り
（住吉南小学校）


山宮神楽
（郷原神社文化財愛護少年団）


大人歌舞伎
（大人歌舞伎文化財愛護少年団）


深角団七踊り
（深角団七文化財愛護少年団）


高千穂の民謡
（飯干彩有）


長刀（神影流棒術）
（押方小学校）


登り口奴踊り
（山本小学校）


神楽体操
（村所小学校）


松の下笹踊り
（市木保育園）


浦安の舞
（赤池神社）


都農神楽
（都農神楽文化財愛護少年団）


城攻め踊り
（紙屋小学校）

子ども伝統文化祭

令和8年 **12月19日**（土）

開場 12:30
開演 13:00
16:00 終演（予定）

メディキット県民文化センター（宮崎県立芸術劇場）　宮崎市船塚３丁目210番地

演劇ホール / 中練習室３・４

披露の場
児童・生徒による郷土芸能のステージ発表
13:00～16:00【会場：演劇ホール】

交流の場
郷土芸能の紹介展示と出演者・来場者の交流スペース
12:30～16:00【会場：中練習室３・４】

入場無料
定員800名
申込不要 / 先着順

主催：宮崎県

後援：宮崎県市町村教育委員会連合会、宮崎民俗学会、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、日本経済新聞社宮崎支局、宮崎日日新聞社、夕刊デイリー新聞社、NHK宮崎放送局、MRT宮崎放送、UMKテレビ宮崎

子ども伝統文化祭

披露の場　13:00〜16:00／演劇ホール



日平俵踊り　（住吉南小学校）

宮崎市住吉地区の日平に伝わる伝統芸能です。柏原から伝わったとされ、水神様への奉納として踊られてきました。小型の俵を使う「俵踊り」と、櫂を使う「櫂踊り」からなり、地域の歴史や暮らしを伝える貴重な文化です。踊り手の高齢化などにより一時途絶えましたが、地域住民や保存会、住吉南小学校などの協力で復活。現在は児童も踊りを学び、伝統の継承に取り組んでいます。



小園臼太鼓　（五十鈴小学校）

およそ 400 年以上前の戦勝祈願や戦勝祝いの踊りが起源と伝わる、門川町の無形民俗文化財です。踊り手はトウチワや旗を背負い、鐘と太鼓を打ち鳴らして勇壮に踊り、静と動の動きで見せます。人を集める道鐘で始まり、出兵の内容を盛り込んだ謡が踊りの各場面に入ります。毎年 11 月 23 日の門川神社大祭で奉納され、五十鈴小学校の文化財愛護少年団の 5・6 年生も、衣装を着けてこの踊りを受け継いでいます。



山宮神楽（郷原神社文化財愛護少年団）

日南市北郷町の郷原神社に伝わる神楽で、約 350 年の歴史があります。海の「鯛釣り舞」、山の「鉾舞」、里の神楽が交ざっているのが特徴です。鉾舞はイザナギとイザナミの国生み神話を舞で表します。女人禁制とされることが多い神楽ですが、郷原神社では女性も参加します。地域の子どもたちも継承に加わり、神社では毎月第 1 土曜の夜に神楽を行っています。



椎葉の民謡　（那須春仁・那須夕莉）

椎葉村に伝わる民謡「ひえつき節」は、臼を囲んで交互に杵を振るい、稗をつく単調な重労働を乗り切るための労働歌でした。
やがて平家の落人伝説と結びつき、那須大八郎と鶴富姫の悲恋物語が歌われるようになり、全国に広まりました。
毎年「ひえつき節日本一大会」が開かれ、今も歌い継がれています。



大人歌舞伎（大人歌舞伎文化財愛護少年団）

日之影町の大人地区に伝わる農村歌舞伎で、この地を治めた武将・甲斐宗攝の供養のために奉納されたのが始まりといわれています。
プロの役者ではなく地域の方々が役者となって演じることが特徴で、江戸末期からの資料が受け継がれるなど、長い歴史があり、県の無形民俗文化財に指定されています。
大人歌舞伎文化財愛護少年団も、その伝統を受け継ぎ、中学校の文化祭やひのかげ渓谷まつりなどで歌舞伎を披露しています。



深角団七踊り（深角団七文化財愛護少年団）

日之影町の深角地区に伝わる踊りで、2007 年に県の無形民俗文化財に指定されました。理不尽な理由で父を殺された姉妹が、苦労の末に仇討ちを果たす全十二段の物語を踊りにしています。約 120 年前、高千穂町栗毛の村人から伝わったといわれます。太鼓の囃子と朗々と歌われる音頭に合わせ、勇壮かつ華麗に踊られ、地元の保存会や中学生も披露してきました。



高千穂の民謡　（飯干彩有）

高千穂地方では秋になると、冬の間の家畜の餌にするため、背丈ほどある草（ススキなど）を大鎌で切り、束にして積み上げ保存する「刈干切り」が古くから行なわれていました。この時に作業唄として唄われていたのが「刈干切唄」です。刈干切唄は日本を代表する民謡の一つで、毎年 10 月に高千穂町で全国大会が開催されます。昔の厳しい生活の中から生まれた哀調のメロディーは、高千穂ならではの素朴さを感じます。



長刀（神影流棒術）（押方小学校）

高千穂地方の棒術は江戸時代に伝わり、農民などの護身武道として普及しました。「長刀（なぎなた）」はこの棒術に複数ある型の一つで、押方小学校では約 40 年前から地域の棒術保存会の協力により長刀の学習が始まりました。現在も運動会での披露や地域の神社の春祭りに参加することにより、地域の歴史や伝統文化を大切に受け継いでいます。



松の下笹踊り　（市木保育園）

「松の下笹おどり」は、市の無形文化財にも指定され、300 年以上前に市木藤地区の水田開発に感謝して踊られたと伝えられています。十五夜の火祭りの前日に松の木の下で踊るので「松の下笹おどり」と言われています。端唄のような短い歌が組み合わされ、かつては 20 曲以上が披露されていました。歌詞からは、全国に伝わる「潮来出島」が変化した「傾城阿波の鳴門」の人形浄瑠璃にちなんだ文句など時代ごとに柔軟に歌と踊りを楽しんでいた様子を垣間見ることができます。



登り口奴踊り　（山本小学校）

「登り口奴踊り」は、川南町の無形民俗文化財です。児童は毎年、運動会でこの踊りを披露しています。保存会の会員でもある保護者の方が講師になり、何度も反復練習をして踊りを伝えています。
後継者不足で伝統芸能の継承が心配されるなか、子どもたちが踊りを学ぶことで、伝統文化や故郷を大切に思う心を育てることを目指しています。



浦安の舞　（赤池神社）

赤池神社に伝わる「浦安の舞」は、巫女が鈴を手にする厳かな舞で、平和と無病息災を祈ります。もとは 1940 年（昭和 15 年）に全国の神社へ向けて作られた舞で、「浦安」は「心安らか」という意味です。赤池神社では神社の改築を機に、氏子地区から選んだ小学 6 年生 4 人が舞う形で復活し、秋の例大祭で奉納されました。近年も地元の小学高学年生が例大祭で舞い、地域で受け継がれています。



神楽体操　（村所小学校）

村所小学校の「神楽体操」は、西米良神楽にちなんだ、全校で舞う体操です。笛と太鼓の生演奏に合わせて舞い、運動場では全員で前進する場面もあります。5・6 年生が「神楽実行委員」として前に出て指示を出し、上級生が下級生を教えます。
運動会にあたる「メラリンピック」や他校との交流で披露され、5・6 年生は白張衣装で舞うこともあります。



都農神楽　（都農神楽文化財愛護少年団）

都農神社に伝わる神楽です。始まりの時代は不明ですが、藩政時代には藩主が祈願のために奉納し、栄えたと伝わります。
約 18 番が伝わり、「御神楽」「鬼神舞」「手力雄舞」などがあります。舞・笛・太鼓がやや早めなのが特徴です。
主に 12 月 4・5 日の冬例祭で奉納され、小中高生を含む保存会が受け継いでいます。



城攻め踊り　（紙屋小学校）

小林市野尻町紙屋地区に伝わる、市指定の無形民俗文化財です。戦国時代に伊東氏と島津氏が城を奪い合った話が語り継がれ、江戸時代に唄や踊りになったと考えられています。かつては豊作祈願やほぜ祭りで高妻神社に奉納されましたが、昭和初期に途絶えがちになりました。
1982 年に紙屋小学校 6 年生が再現し、現在は保存会と文化財愛護少年団が受け継いでいます。運動会などで、色鮮やかな衣装で披露されます。

交流の場　12:30〜16:00／中練習室3・4

各団体の活動紹介や地域文化展示を通して、出演者や来場者が交流できるスペースです。

見て・触れて・体験して郷土芸能の魅力をたっぷり楽しみましょう！

- 郷土芸能紹介パネル 衣装の展示
- 伝統衣装を着て 踊りや舞いの体験
- 笛や太鼓の体験
- みやざき犬との写真撮影

ブースで、体験や交流に参加すると各団体の演目や衣装をモチーフにした みやざき犬の缶バッジをプレゼント！

缶バッジは全部で14種類！
たくさん参加してコンプリートを目指そう！



お問い合わせ　子ども伝統文化祭事務局（テレビ宮崎商事内）
TEL.0985-27-8980（平日10時〜17時）